

編集・発行：◎倉敷芸術科学
 学大学図書館（〒712-8505
 岡山県倉敷市連島町西之浦
 2640 TEL.086-440-1181
 FAX.086-440-1182）
 編集・発行責任者：
 館長 山岡 萬 謙
 （国際教養学部教授）
 編集者：
 館員 井上 弘 行
 館報は図書館ホームページ
 でも読めます。
<http://www.kusa.ac.jp/lib/MAIN.HTML>



倉敷芸術科学大学図書館報

学 而 思

（がくじし）

題号の由来

孔子と弟子たちの言行を取録した「論語」の「子曰、「学而不思則罔。思而不学則殆。」（先生が言われた、「学んでも考えなければ、はっきり理解できない。考えても学ばなければ、確かなものとならない」の意）による。読みは日本語の音読みとした。初代学長谷口澄夫先生の筆による。

祝ご入学

図書館での邂逅!!



芸術学部 美術学科卒業 国本 知美

私は図書館に二つの「顔」をつくった思い出がある。

一つは、おおよそ見当はずくだらうが、落ち着けるとか和むとかいった憩いの場の「顔」である。それは、夏はクーラー、冬は暖房が利き、静かで、読みたい本や雑誌、新聞が誰でも利用できるからである。また、トイレがきれいなことも捨て難い要因であったように思う。

二つ目は、険しい「顔」である。一年に二回だけは休憩時間ともなると人がどっと集まって、急ににぎやかになる。一年に二回というのは、試験中のことである。この期間中は、皆がそろって一斉にノートを交換し合い、大学生命を懸けて一所懸命、最後のギャンブルに出る。この時、図書館は険しい「顔」が満ちた場と化するのである。



産業科学技術学部 ソフトウェア学科卒業 南澤 雅哉

この二つの「顔」は、私が作り出した「顔」であって、人はそれぞれ違う「顔」をもったはずである。したがって、図書館をどう利用するかは、各自の自由な仕方があると思う。とはいえ、静かに本を読むとか勉強するとかいった「顔」を持っている人が多勢いるのだから、決して回りの人に嫌な思いをさせる様な行動をとってはならない。だが、この簡単なルールを守れば、自分の好きなように利用し、多くの「顔」を作ることが出来るのだ。私の作った「顔」は二種類しかなかったが、もっと違った、様々な「顔」を作っておけば良かったと思っ反省している。さて、新入生の皆さん、あなた達はこの四年間でどんないくつかの「顔」を作れるのだろうか？

図書館への思い出

— 卒業生から新入生に贈ることば —

僕は卒業研究のテーマとしてPROLOG（プロログ）という言語を研究しました。この言語はCやVBといった言語と比べるとあまり一般的には知られていません。そのせいか非常に参考文献が少なく、本屋に行っても手に入れることがなかなか出来ませんでした。そこで注文して取り寄せようとする、本が手に入るまでかかってしまします。しかし、大学の図書館には、専門書が多数所蔵してあるので、すぐに資料が必要な時にはとても便利でした。また、専門書は高額なものも多く、個人で購入するのは困難です。図書館にはそういった高額な本も置いてあるので、学生の自分としては大変助かっているのはいうまでもありません。現にPROLOGに関する本もあり、研究する上で非常に役に立っています。またレポートを作成する時にも多くの本を利用したものです。必要な参



教養学部 教養学科卒業 福本 真子

考文献は図書館内にある検索用のパソコンに必要なキーワードを入力するだけで簡単に探すことが出来るので、そういった点でも利用しやすいのです。また、自分のパソコンを持ち込んで使用出来るスペースもあり、広い机の上でパソコンと本を同時に広げて、レポートなどに取り組んだ記憶が新しく思い出されます。また新聞も置いてありますので、僕も時々読んだものですが、大学生としても是非と思います。その他に、ニュートン等の専門雑誌も多くの種類がそろえてあり、最新の情報を得た思い出が鮮明に残っています。

の規約を作っていないかなければなりません。しかし、ついこの間まで高校生だった私には「規約」ということは新しく、何をどうしてよいのか分かる筈がありません。そんな時、図書館は私にとって、大きな存在となったのです。図書館は当時四万七千冊の蔵書数でした。「これだけあれば、きっと法律の書物も数冊はあるのではないだろうか」と思ったものです。期待どおり、日本での法律ばかりでなく、外国の法律も知ることが出来、「教養学部」の学生としての知識も養うことが出来たのです。振り返って見ると、この役職は人生において大切な期間だったのでないかとも思います。こうして出来上がったのが、今も学友会に残っている様々な規約です。この文章を読まれた新入生の皆様が学友会活動を行う時、私達二期生の苦労話でも思い出し、ふと図書館に寄ってみる気になつてくれれば幸いです。様々な理由で図書館を利用した中で、一番思い出深いものを文章にして皆様に贈ります。今からでも覗いてみてはいかがでしょう。ひよつとすると素晴らしい書物に出逢えるかも知れません。そしてそれは、あなたの人生に大切な、また必要なことかもしれません。図書館こそ、知識の宝庫だからです。



読んでおきたい！ 大学生のいま

推 薦 図 書 介 紹

『ギリシヤ神話』

付北 北欧神話

山室 静著
(社会思想社)

産業科学技術学部教授
渡辺 守

「現代教養文庫」で出版されて以来20年たらずで70版を越え、1980年に社会思想社から新版として出版された名著である。やさしい言葉づかいと淡々とした語り口で神話の持つ凛とした雰囲気をよく伝えていく。

数ある物語の中で私は『デメテルのかなしみ』が印象深く好きである。四季がモデルといわれており、今マスコミで話題の石榴(ざくろ)も登場する。神話のもつスケールとダイナミズムを存分に味わうには読み手の豊かな想像力が求められる。

「想像」と「創造」は表裏一体であることに思い至れば、遠い神話で想像を逞しうすることは豊かな創造力の復活を図ることに他ならないという今日的意義が見えてくる。

『21世紀の技術と社会』

日本が進む三つの道

森谷正規著
(朝日新聞社)

国際教養学部教授
浅川 富美雪

21世紀はどのような社会になるのだろうか。それには、まず20世紀は何であったのかを認識しておくことが必要である。

本書は、20世紀を人間の数々の夢を達成した技術進展の時代、「技術の爆発の時代」であったとしている。しかし、真に豊かになったのか、と問いかける。「個人生活」「物質生活」は大いに豊かにしたのだが、「社会生活」は今も貧しい。しかも、「個人生活」「物質生活」の豊かさの代償として、「社会生活」に様々な厳しい問題が生じているのではないかと。

著者は、21世紀の日本が進むべき道として、

一つは「社会問題の解決」、

二つは「高度情報化」、

三つは「人間・生物・自然」に向けての技術進展の方向を示す。

『バスケットボールのメンタルトレーニング』

ジェイ・マイクス著、石村宇佐一他訳
(大修館書店)

国際教養学部教授
松原 孝

ルネ・デカルトが「私とは、一体、何か」を考えるものがある。考えるものとは何か。疑うもの、理解するもの、肯定するもの、否定するもの、願うもの、拒絶するものである。そして、心の気づき、身体の気づきの大切さを教えてくれた書物である。

『蔵王だより』

蔵王いこいの里 編者
(光陽出版社)

芸術学部助教授
大熊 治生

この本の著者、岩川久子先生は私(大熊)が中学生のときに、保健体育を担当されていた先生です。

岩川先生は校内暴力などで中学が荒れ始めた頃、それまで24年間続けた教員生活をやめ、ご夫婦で蔵王山麓に「蔵

『木彫』

高村 光雲

高村規著・写真
(中教出版)

芸術学部助教授
家住利男

待望久しい高村光雲の作品集です。一般的には高村光太郎(詩人・彫刻家)の父親といたっほうが、分かりがいいかも知れません。光雲は明治の始めに仏師の元で修業をし、その後、東京美術学校(現在の東京芸術大学)で教鞭をとりました。

光雲の作品集からは色々なものを読み取ることが出来ますが、特に、明治期に意識的に作られた美術・工芸の概念を考えながら見ると面白いです。

江戸の文化が明治・大正にかけてどのように美術・工芸に分化していったかを考えてみてください。

モダニズムを見直すために、また、自分自身の足元を見直すためにも参考になります。

『ディケンズの毛皮のコート／シャーロットの片思いの手紙』

ダニエル・ブール著、片岡信訳
(青土社)

国際教養学部講師
鶴川 雅江

列車の中での読書は、現代人にとってはごく日常的な楽しみである。しかし、かつての馬や馬車の旅では不可能なことであった。十九世紀イングラントでは、鉄道が急速に発達した。読書を楽しむながら、快適にまた迅速に目的地にたどり着ける旅が、初めて可能になったのである。その一方で当時の画家や作家は、風景を眺める楽しみや詩情を奪われると残念がったという。

本書は、このように現代の日本人には当然とも思われる事柄が、ヴィクトリア朝の文豪たちの暮らしかや考え方といかに隔たっているかを明らかにする。名作が執筆されるいきさつや、出版の裏話、作家たちの私生活などを楽しく手軽に知ることが出来る名著である。

〈年間ベストセラーズ〉

※共同通信社調べ

- 1 『五体不満足』 乙武洋匡著 講談社四二七万部
- 2 『週間金曜日別冊ブックレット 買ってはいけない』 金曜日一九五万部
- 3 『ファイナルファンタジーⅧ アルティマニア』 デジキューブ一八四万部
- 4 『人間まるわかりの動物占い』 ビッグコミックスピリッツ編集 小学館一七二万部
- 5 『日本語練習帳』 大野 晋著 岩波新書一六五万部



芸術学部 助教授 濱 渉

大学在学中、美術史のレポートを書いた時、文明の伝播と受容の過程で生じる伝統的な文化とのハイブリッドな展開を示すヘレニズム時代の美術や遺跡などについて興味をわきました。専攻科終了後一年半の後、イタリアのミラノに滞在し、現地の美術学校に籍をおいていました。その夏



"Ancient civilizations and ruins of turkey" Ekrem Akulgal

休みを利用して一九七八年にギリシャ文明の東の拠点であるトルコ領小アジアへ旅行することになりました。当時は現在のように便利なバック旅行なども存在しませんでした。今回の文章のテーマとなった書籍は、最初の滞在地、イスタンブールの博物館で購入したものです。書名は "Ancient civilizations and ruins of turkey" (Ekrem Akulgal 著)

旅行に携帯した書籍

イスタンブール博物館で入手

です。旅行中に、諸地域の文化遺産や都市遺跡の必要な情報を得るための書籍として役にたちました。しかしガイドブックのようなものではなく、考古学および、美術史考古学に関する記述のみで、十分な地図もないこの一冊が行動の指針になりました。旅行は独り旅で、宿泊や、言葉、交通手段などで随分難渋し、当時はやりの寝袋一つとリュックをかついだ典型的な冒険旅行であったように思います。ギリシャ神話やシユリマンの伝記で有名なトロイヤの遺跡には最寄りのバス停から数キロの徒歩でようやく到着し、日没を迎えたのに宿泊施設もありませんでした。ヘレニズムの都市ベルガモンは海拔四〇〇mの丘全体が大きな遺跡として聳え立っており感動しました。現在では、そこにあつたはずのゼウスの大祭壇は、有名な巨人族との戦いレリーフともどもベルリンのベルガモン博物館に建築ごと移築されており、現地には階段の石材の痕跡しか残っていません。ヘレニズム時代、羊皮紙

(Pergameneous) の語源にもなつたベルガモンの図書館遺跡はアレキサンドリアの図書館と交流があつたと歴史の記述にはありますが、麓にある、エジプト式神殿と破壊された彫像の遺跡によってわずかに想像をするほかありません。この書籍を持つていたおかげで思わぬトラブルを逃れることもできました。ギリシャ植民都市からヘレニズムを経てローマ時代にもおおいに栄えたエフェソスの遺跡近くのチャイハネ(喫茶店)で二人連れの男に呼び止められ、旅行の目的や今後の予定などについて質問を受けました。言葉もあまり通じないので、この書籍を示し、掲載されている都市遺構や博物館を回る予定を示したところ、著者がその国で名のあつた権威者であつたので彼等の民族意識から好意的な態度に変わりました。あとで判つたことですが、彼等は、特別警察の係官で不審な行を調べていたわけですね。書籍は室内で静かに味わつて読むのも良いですが、旅行に携帯した書籍のなかの思い出深いものとしてこの一冊を選びました。この本から得る情報は図版も少なく文字情報と遺跡図面が主体であるだけに、現地に到着するまでの期待感を高め、目的地に到着した時の感動も大きかつたと言えます。

近隣図書館訪問記

倉敷市立玉島図書館

レポーター 芸術学部1年 中村 国聖

高揚する期待感とそれに交錯する不安感に抗いつつ、僕が訪問したのは「倉敷市立玉島図書館」でした。さすがに、静寂そのものの雰囲気です。建物の外観もさることながら、周囲にはくすの木やポケットパークが配され、緑が多い中に、一つの彫刻が目につきます。それは、第二回倉敷町角彫刻展の作品だそうです。この作品は素人の手によるもので、いかにも庶民的な好感を呼びます。

館内に入って、明るい室内で、早速館長さんから質問を求められました。これといった定見を持たない僕ですが、もと興味は十分あるので、次第に對話に熱が入ります。

しかし、一番関心をもつたのは、倉庫二階にある古文書の数々でした。ここは関係者以外立入禁止ですが、何とか拝見させてもらえました。こうした貴重な文献から多くの業績が生まれ、過去の文化が解明されるのかと胸がときめいたことでした。さて、館長さんのお話によると、この図書館では毎月イベントを行っているそうです。折り紙教室やマジックショー、さらにコンサートまで。図書館では静かにしなげりやいけないばかりだと思つていましたが、その他にも、勉強する時に便利な研修室、画面を押しだけの簡単パソコンでの検索、綿密な計算がなされる本棚の高さや通路の幅、こうした気のつかない所にも配慮されている心配りに思わず感嘆の声が出たのです。

「良寛コーナー」や豊富な「古文書」

「では、館内を回りながらまずは、「児童書コーナー」から。明るくて日あたりもよく、子供が自由に本を読める空間になっていて、なんだか、とても懐かしい気分になってきます。思わず子供の頃を思い出させます。その横には中学生位を対象とした本が並ぶ「ヤングアダルトコーナー」というのがありました。次には大人たちが大勢いた、人気の「新聞コーナー」に続いて、この玉島図書館特有の「良寛コーナー」が設置されてきました。玉島ゆかりの良寛は、江戸後期の高潔な禅僧で、和歌や漢詩にすぐれた人物として知られています。この人の分厚い本から児童書まで多くの作品が見られたのは印象深く感じました。



玉島図書館案内

倉敷芸科大学生諸君!

直木賞作家 出え根達郎



物の値段というものは露骨なもので、その品を必要としない人には、えらく高価に感じられます。

本が本でなく

二百円のお金が無かった、とは考えられません。仮りに持ち合わせがなかったとしたら、お金を都合して再び買いに来るはずですが、その学生さんはそれきり現れませんでした。

たしてくれるかわからないのに。そう思い残念だったのは、私が古本屋だからでばかりではありません。本を買わないですませる学生さんが、多くなりました。昔は経済的な理由があったのですが、現代はそれだけではない。

部屋が狭いから邪魔になる、という

置き場所の問題もありますが、以前と違って古本に換金性が薄くなったことが大きいように思います。

読み古しの文庫や小説を古本屋に持ち込んで、引き取ってくれない。古本屋では品物がだぶついて、断らざるを得ないのです。

図書館で読めばよい。金はかからず、置き場や処分も苦勞することもない。確かにその通りですが、私はやはり書物というものは、身銭を切って求め、手元に置くものだと思います。

読まなくなつてよいのです。そばにあると、何か安心する。毎日、表紙や背文字をながめていると、心がなごんでまいります。そして、いつの日か、あなたに話しかけてくる。本は本でなく、呼吸している生きものに思えてきます。

図書館

忙々日誌

99 10月▽6 平成11年度第1回図書委員会規程改正などについて▽8 芸術学部棟増築工事起工式▽13 卒業アルバム用図書館職員写真撮影▽20 図書館「自己評価」まとめ▽21 山陽学園高校生2名図書館見学▽25 利用ガイド用掲示板写真撮影▽29 平成11年度NACSIS-IR(新IR対応)地域講習会井上課長出席

11月▽2 福山城之館高校、英数学館高校の生徒学内

図書館見学。冷暖房機器切替▽8 利用ガイド用表紙写真撮影(玄関書架)▽11 学術雑誌総合目録和文編2000年版データ作成説明会橋本館員出席▽12 新刊推薦図書紹介文執筆依頼(図書委員)▽9 火災予防週間▽15 館内

12月▽1 外国雑誌製本(1000冊)▽3 冬期長期貸出(1月12日まで)▽



6・8 館報用学生写真撮影▽13 濱坂助教教授館報用写真撮影▽14 「図書館利用ガイド」制作準備▽15 明王台高校の生徒学内図書館見学▽20 冬期休業形態運用(1月7日

まで開館時間9:00~17:00)▽25 図書館閉館(25日、1月5日)▽27 館内大清掃。図書館機械システム年内業務終了▽28 書架整理。御用納め

お知らせ

学面思第3号で「図書館のコピー料金」を取り上げました。コピー料金は、10円か20円か、というものでした。昨年10月6日規程改正の委員会が開かれ、平成12年4月1日より10円に改訂されることになりました。コピーは、館内資料専用です。併せてお知らせします。

見愚牛天

一九二二年、ノーベル文学賞を受賞したアナトール・フランスは次のようにいっている。「私が人生を知ったのは、人と接したからではなく、本と接したからである」と。彼の代表作には「タイス」「現代物語」などがある。彼は、書物に盛られた人生の豊かさを糧として、自己の人間形成に励んだのである。

また、イギリスの文筆家にエリスという人がいる。この人は「新聞は世界の鏡である」といっている。世界の出来事は、その日の新聞に映し出されているというのである。これらは「良書は人類不滅の精神である」といったイギリスの詩人ミルトンのことばともにも忘れられない名言である。図書館の存在意義を再認識させることばではあるまいか。

江：江戸時代の川柳に「雪の日は唐で油の値が下り」というのがある。これは有名な中国の晋の孫康の話からひねり出した句である。彼は家が貧しいので燈油を求めると金がなく、冬には雪に照らして書物を読んだという。さらに、晋の車胤も同様に貧しかったので、油が買えず、夏はねり組の袋に螢を入れ、そのあかりで書物を読んだそうである。

それをふまえて、蕪村の句に「学問は尻からぬけるほたる哉」というのがあるの思い出す。これら二つの故事から「螢雪の功」という成語が生まれ、苦学力行を意味することは周知のとおりである。

中国の「楚國先賢伝」という書物にこうある。「孫敬は常に戸を閉めきつて書物を読み、睡くなれば縄で首を結び、それを梁の上につけて、睡って首を垂れば自然に止められるようにして睡気を防ぎ学問した。そこで町の人びとは、彼を閉戸先生と呼んだ」。江戸時代の川柳にこの話をもとに「うろたへた弟子が閉戸を抱止める」というのがある。また、「古列女伝」には、いわゆる「孟母三遷の教え」が見える。わが子のために、よりよい環境を求めて三度も移転したこの逸話に対して、「おつかさん又越すのかと孟子いひ」と川柳はうたっている。そして、成長して学校に入った孟子が学力が以前のままだった。それを聞いた母は、織っていた機織物を切断して、学問を中途で廃める愚かさを教えたのである。この話も、「軻親断機」という箴言として知られている。そして、川柳ではこれを「手織にて孟母とうとう仕立上げ」とまとめているのである。